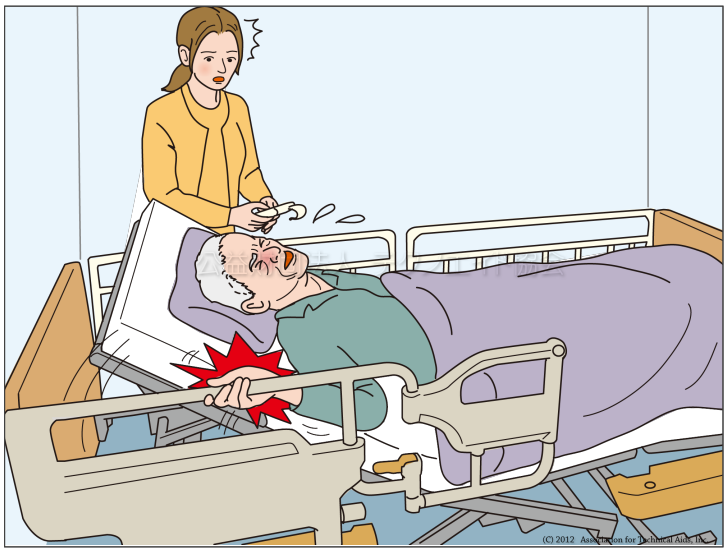
Case：195

ベッド用グリップを握ったままの状態で背上げをしたため、手をひねりそうになる

場面の説明

利用者がベッド用グリップをつかんでいることを見落として操作してしまい、利用者の手をひねってしまった



利用シーン	起居・就寝 リモコン操作
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	特殊寝台付属品
分類コード (CCTA95)	181227 (ベッド用サイドレール，ベッド固定式起き上がり手すり)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

介助者の不注意から起きる事例です。利用者はベッドの背を上げると身体がすべり落ちそうになる感覚から、ベッドの柵（サイドレール）などにつかまりたくなります。介助者が手の位置を確認することはもちろんですが、身体がズレ落ちないよう膝を上げてから背中を上げるなど、基本的な操作手順を順守することも大切です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：利用者の状況を確認せずにベッドを操作した
人：身体がズレるため何かにつかまりたかった
管理：このような危険があることを周知する安全のための研修が行われていなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.

福祉用具ヒヤリハット　研修教材（受講者用）

日付：	所属：	氏名：

Case：195

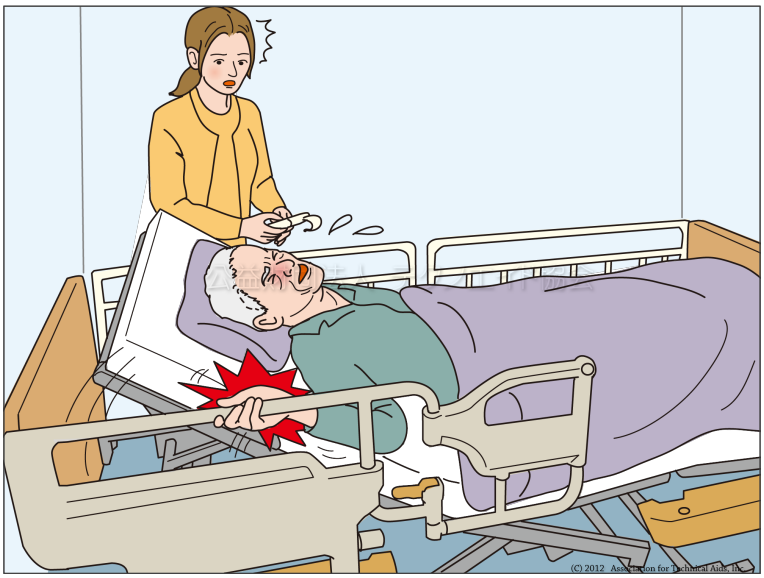
ベッド用グリップを握ったままの状態で背上げをしたため、手をひねりそうになる

事例詳細

回答前に見ないこと

場面の説明

利用者がベッド用グリップをつかんでいることを見落として操作してしまい、利用者の手をひねってしまった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ

Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.